

みんなが主役の〈社会〉をつくる

—社会教育関係者の挑戦が子どもや住民を勇気づけ、新たな社会をつくる—

牧野 篤
(東京大学大学院教育学研究科)

子ども・若者たちに希望を！

この社会を次の世代につなげる

みんながつくる〈社会〉へ

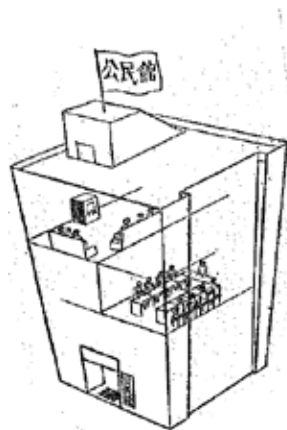
「つながれない社会」「つどえない社会」

⇒コロナ禍で「つながれない」「つどえない」？

**⇐本当は、もっと前から、この社会では
人々がつながれなくなっているのでは？**

1. 地域をつくる公民館・社会教育

民主的社会教育機関です

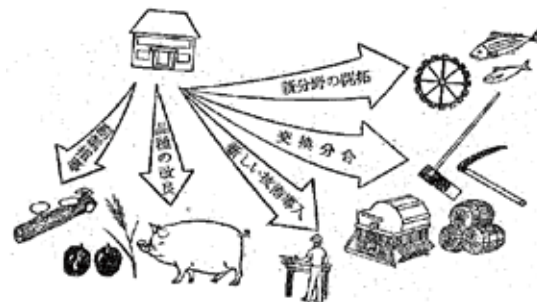


村の茶の間です

親睦交友を深める施設です



産業振興の原動力です



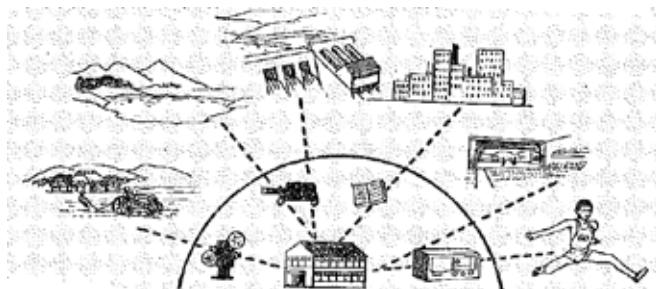
民主主義の訓練場です



郷土振興の機関です



文化交流の場です



公民館の構想と実践

村の茶の間です

親睦交友を深める施設です



世代から世代へ「生」を送る

恩送り

社会の最先端だった公民館

新しい生活を見せてくれ、体験し、実感できる場

**社会教育は
この社会をみんながつくり
愉しく暮らすための
地下水脈**

社会教育に（特定の）「目的」はない（といってもよいのでは？）

社会教育がしっかりしていると、社会に（それぞれの）「目的」が生まれる

一般行政は、社会教育の基盤の上で、有効に機能する

社会教育は「社会」を永續させるための人々の関係を「耕す」営み
⇒これを〈学び〉と呼びたい

社会教育：生きるを支える⇨共生（ともに生きる・平等・社会）

⇨ 生きるをともにする〈社会〉 ⇨ **持続可能な社会の実現**

生涯学習：生きるを励ます⇨多様性（個別性・一生涯・個人）

2. 社会の構造転換

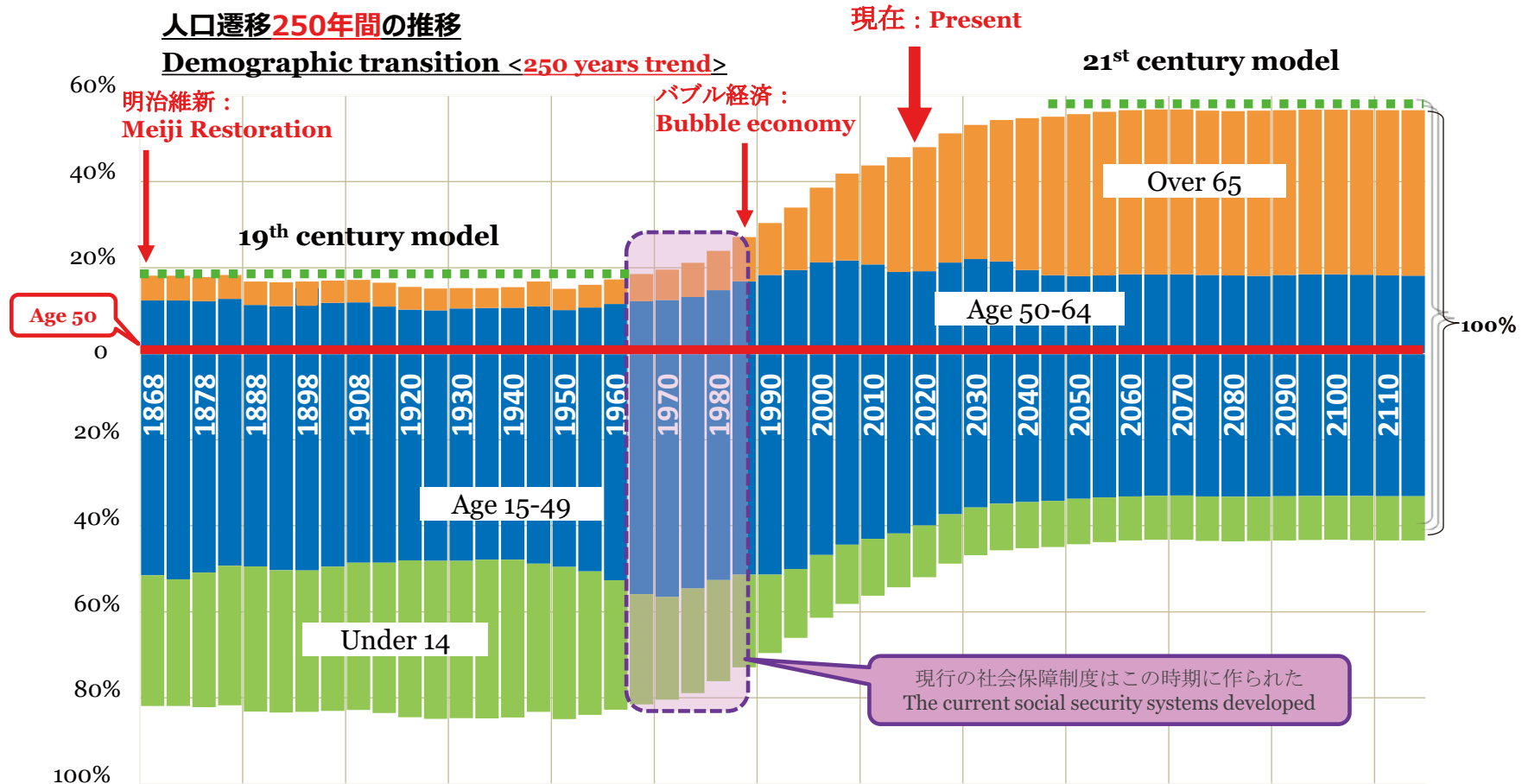
2007年生まれの子どもたちの予測平均寿命=107歳

日本人の平均寿命=男性：81歳　　女性：87歳
最頻死亡年齢=男性：87歳　　女性93歳

健康寿命=世界で最も長い

人口構造の遷移 Japan's demographic structure & transition

- There has been a **major shift in the population structure** from the 19th to the 21st century.
- It will be **impossible** to maintain the **social security systems** established in 1960-80s.



Source: Sensus, Okazaki estimate, National Institute of Population and Social Security Research 2017 estimate

© T Hasegawa RIFH. Japan

UN Estimate2017

**少子高齢人口減少社会
(悲観論)
から
人生100年社会へ
(希望論)**

**高齢者への対応から
子どもたちを主役に
持続可能な社会をつくる**

21世紀型スキル

(アメリカの)小学校入学生の65パーセントは、
大学卒業後、今ない仕事に就いている。
(アメリカ・デューク大学キャシー・デビッドソン)

現在の仕事は、2030年に50パーセントが自動化され、消える。
(オックスフォード大学)

だから、すべての子どもたちに、
豊かな「学び」の機会を保障すべき

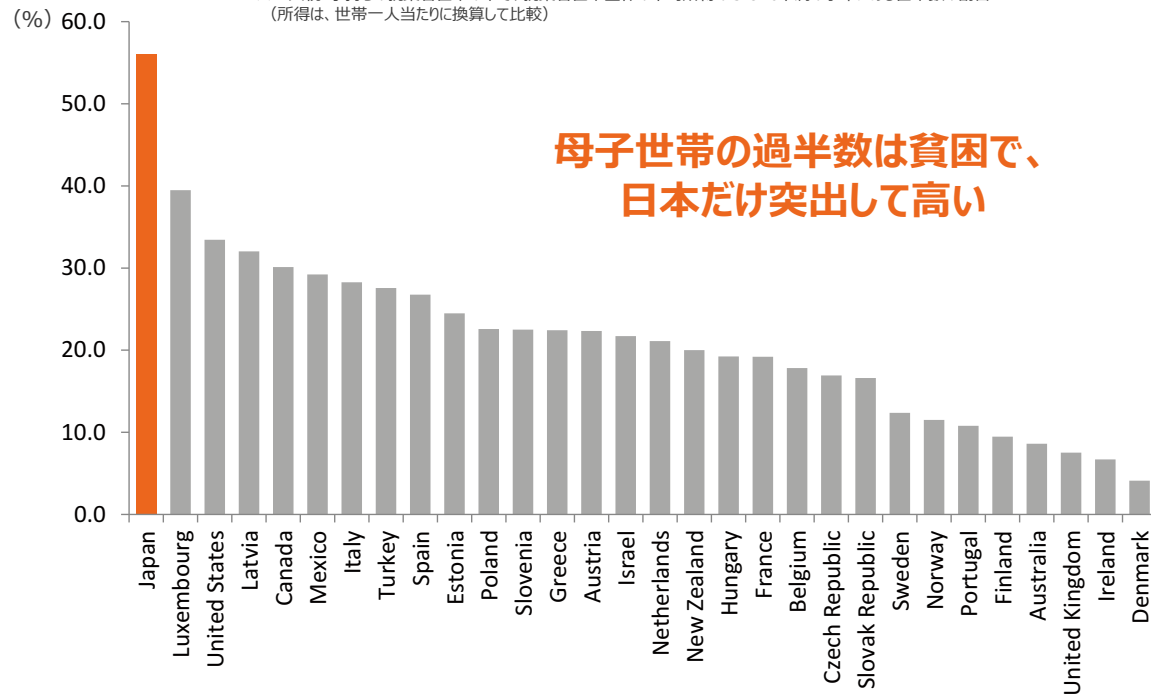
- ・ 思考の方法—創造性、批判的思考、問題解決、意志決定と学習
- ・ 仕事の方法—コミュニケーションと協働
- ・ 仕事の道具—情報通信技術（ICT）と情報リテラシー
- ・ 世界で暮らすための技能—市民性、生活と職業、個人的および社会的責任

子どもの貧困

日本の母子世帯の貧困率は世界でも突出して高い

OECD各国の一人親・子持ち就業者世帯の貧困率※

※一人親・子持ちの就業者世帯の中で、就業者世帯全体の平均所得の50%未満の水準にある世帯数の割合
(所得は、世帯一人当たり換算して比較)



(出典) OECD Family Databaseより経済産業省作成

27

子どもの
相対的貧困率：17%
ひとり親家庭：57%

「子ども食堂」
5000カ所

**貧困は、学校教育を通して、
世代間で再生産される**

**⇒どこに楔を打ち込み、
悪循環を止めるのか**

認知症高齢者数：

2012年に462万人

高齢者に占める割合15パーセント

予測では

2025年に730万人、20.6パーセント

2060年には1154万人、34.3パーセント

総人口の13パーセントを占める

MUFG「認知症の現状と将来推計」、

<https://www.tr.mufg.jp/shisan/mamori/dementia/>(2019年9月9日閲覧)

厚生労働省オレンジプランの推計

3. 子どもに必要な相互承認と対話的学び

**話せばわかってくれるという信頼感が
自己肯定感を強める**

社会に居場所ができる

⇒子どもが自分から貧困から抜け出そうとする

自律・自立しようとする

関係の貧困

認知

学力

生活習慣・リズム

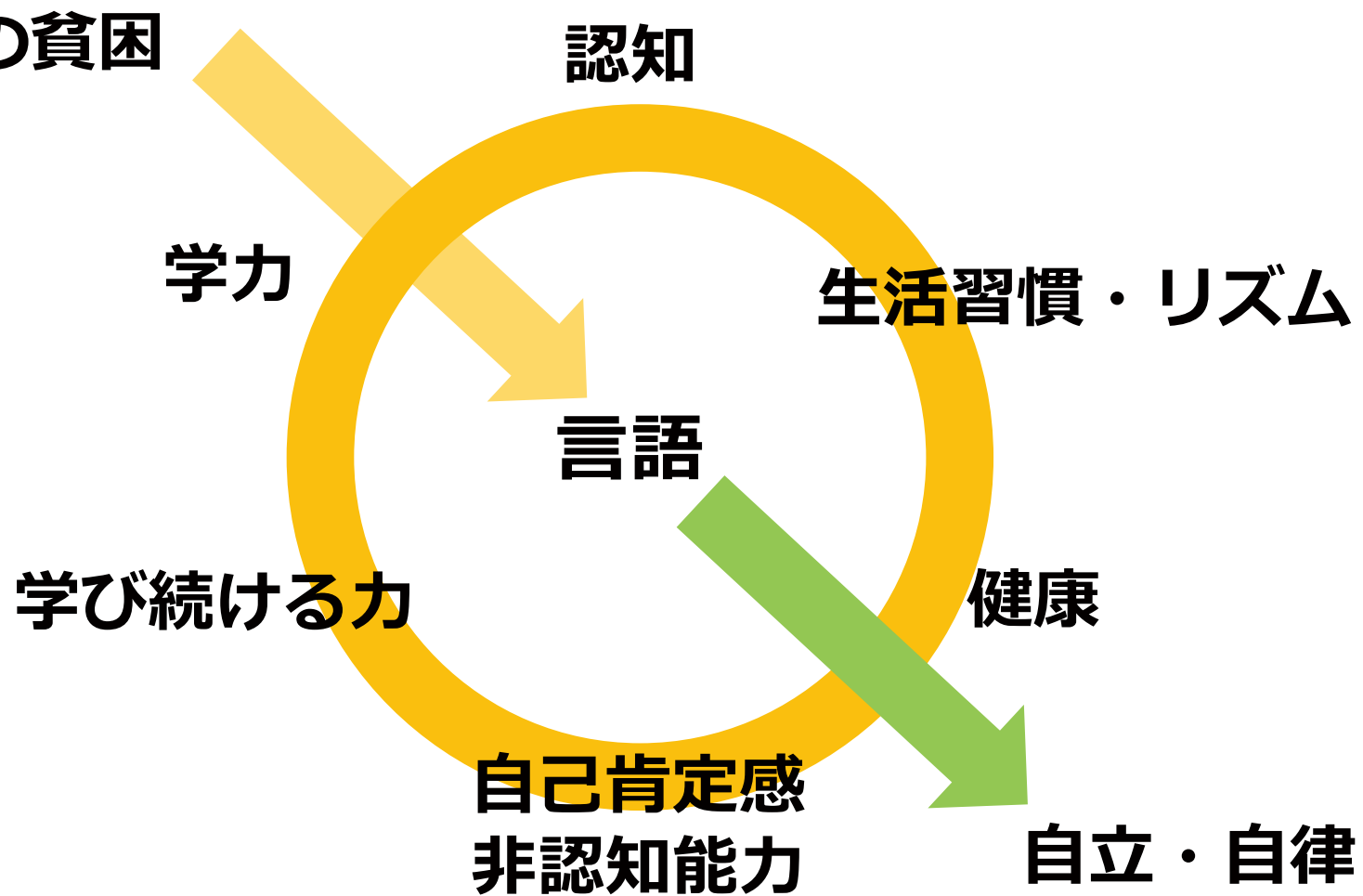
言語

学び続ける力

健康

自己肯定感
非認知能力

自立・自律



安心して、Sense of Wonderを発揮できる

安心して、自分は自分だといえる

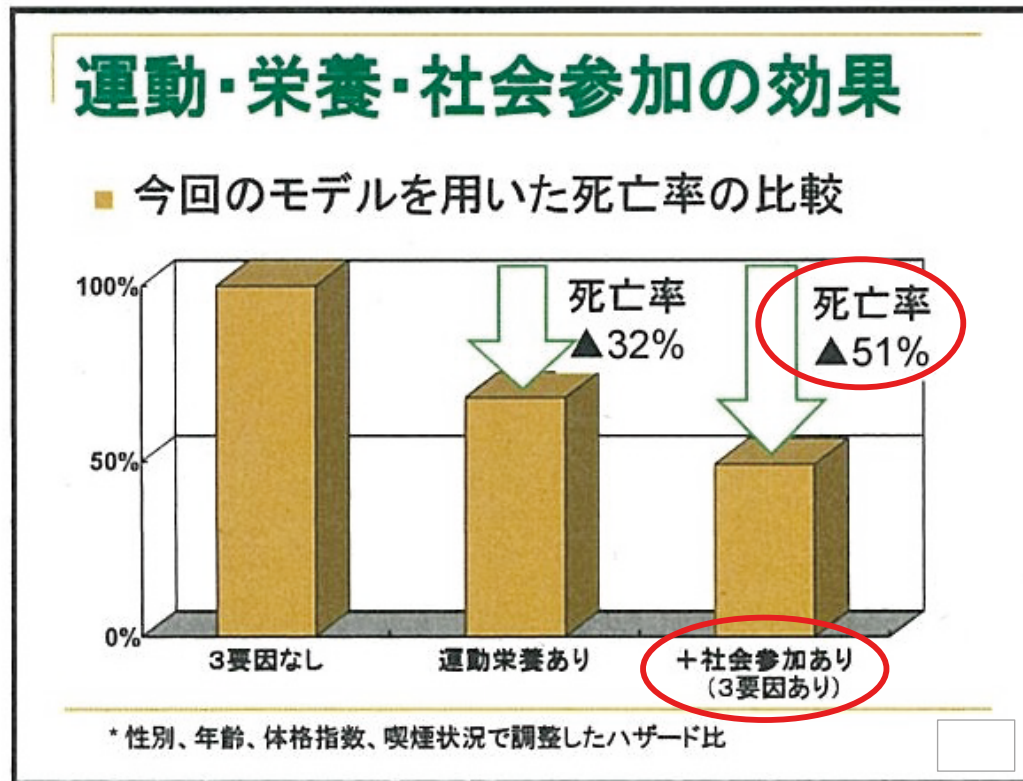
認めてもらえる関係

4. どの世代にとっても必要な承認と肯定

静岡県高齢者コホート研究

【高齢者14,001人の追跡結果】

○運動・栄養について良い習慣を持つこと、更に**社会参加**により死亡率が大幅に低下



出典:「静岡県高齢者コホート調査に基づく、運動・栄養・社会参加の死亡に対する影響について」
2012年、東海公衆衛生学会、平山朋他

若者の移動の動向

**公民館など地域の活動に熱心に取り組む層には、
共通して15歳までの地域活動の分厚い体験がある**

(東京大学牧野研究室と飯田市公民館との2014-15年度共同研究)

若者の移動・コミュニティへの定着

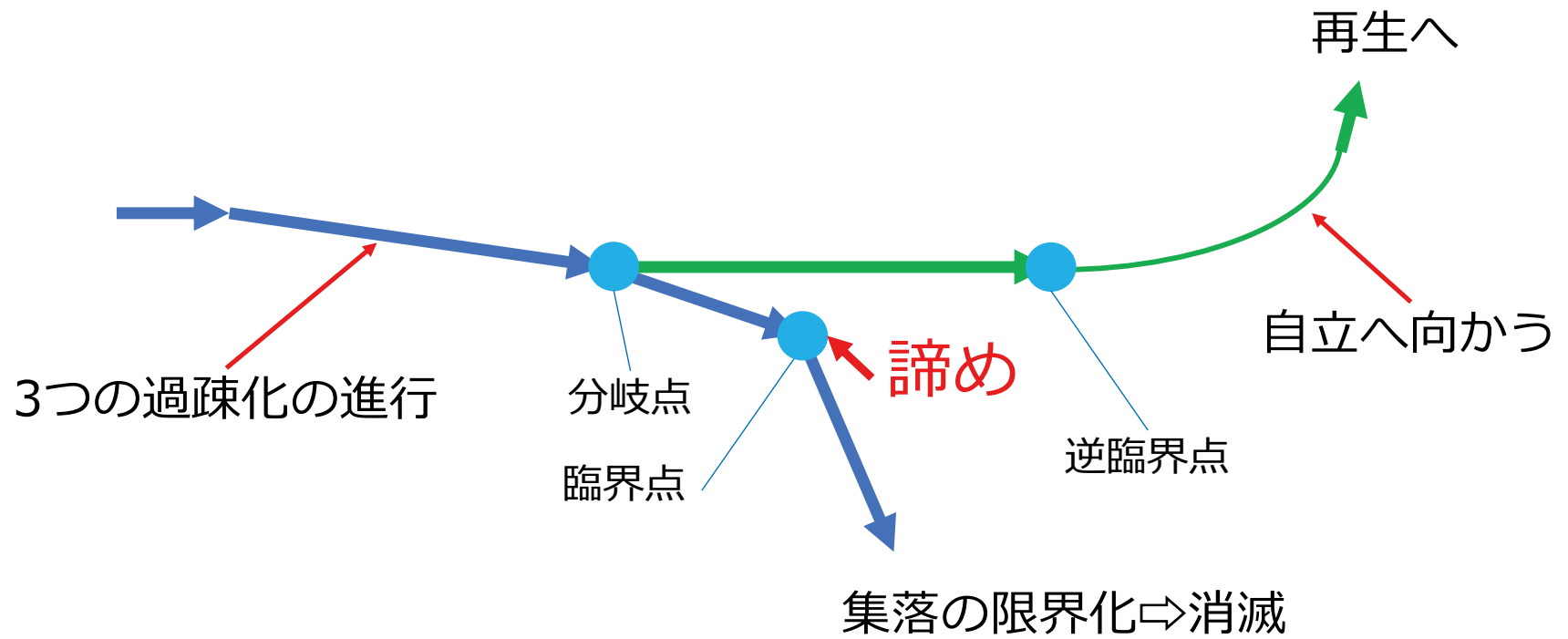
**利便性より自然環境
地域参加意識
競争より充実
自然相手の仕事
仕事が生**

→ 受け入れられること
文化的なもの
地域社会重視

中山ちなみ「若者の地域移動と居住志向：生活意識に関する計量分析」、『京都社会学年報』第6巻、1998年

5. 当事者になるということ・1

農山村限界化のプロセス



小田切徳美『農山村は消滅しない』、岩波新書、2014年を参照して作図

a. 過疎・高齢中山間村の活性化事業

2009年に開始、以来13年間のとりくみ、現在も展開中

基本的考え方：「農的生活」を基本として、新しいライフスタイルをつくる
現地の高齢者の文化や生業を基盤に、都市の若者文化を融合する
自然環境配慮型のライフスタイル

単能工の都市民を多能工の「農的生活者」に組み換える
「農的生活」とは農業の生活ではなく、様々な生業を行う生活
多能工的な「農的生活者」は多様な能力を啓いた生活者

プロジェクト開始時10名の若者が、いまでは60名になり、子どもも40名ほど生まれた
一人あたり年収は現金で300万円超、現物を入れると600万円ほどとなり、
全国平均を超える





多世代「共居」の村づくり

かかわりあう
共に感じる、動く
励ましあう





地域を担う人材創造拠点
つくラッセル

廃校跡地を利用した試み

新たな試み1：福祉と生活の融合



地域密着型通所介護
小規模デイサービス
あんじやない

**仕事を分け合い、シェアリング・エコノミーを実現する
生活を支えあい「多能工」になる**

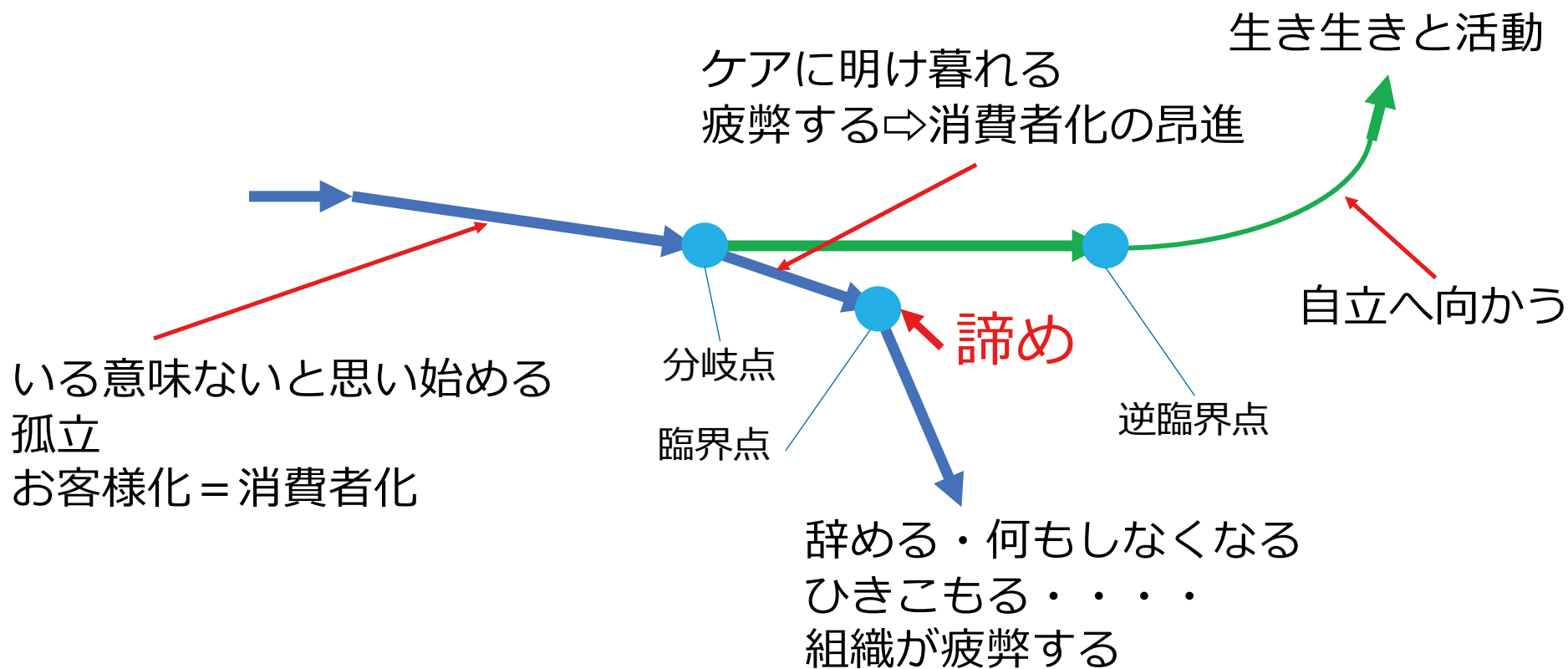
中山間村が多世代共生のグループホームに

中山間村がエネルギーの自立圏に

**旧来の工業社会では価値がなかった中山間村が
日本の先端地域に**

6. 当事者になるということ・2

人と組織の「限界化」プロセス



b. 多世代交流型のまちづくり

大都市近郊の「限界団地」

施設に入らず一生安心

綺麗に老いる

いつまでたっても好奇心を持って

ボランティアは新しいシニア世代のた
しなみ



**子どもとの交流が活発化
学校行事を請け負う**

**子育てに優しい地域との評判
子育て世代が転入
学校が学級増へ**

**高齢者の「終の住処」としての
コミュニティづくりへ**

楽しくて仕方がない

c.都市部の空き家を開放する



定期的な居場所をつくる / 開いてるデーカフェ & 駄菓子屋



住民が、
地域コミュニティをつくり出すこと

= **文化**の生成

つながりの生成 = **まちのお茶の間**
居場所をつくる

7. ポストコロナ時代に向けて

(1) 新しい生活スタイル

三密を避ける
新しい生活スタイル
ソーシャル・ディスタンス

⇒これまでの教育実践への挑戦

(2)想像力を働かせる

ステイホームダイアリー（藤沢市）



企画・運営 **studio-L TOKYO**

(3)新しい発想で：出かけていく公民館
ーアートを重ねる
(沖縄県那覇市若狭公民館)



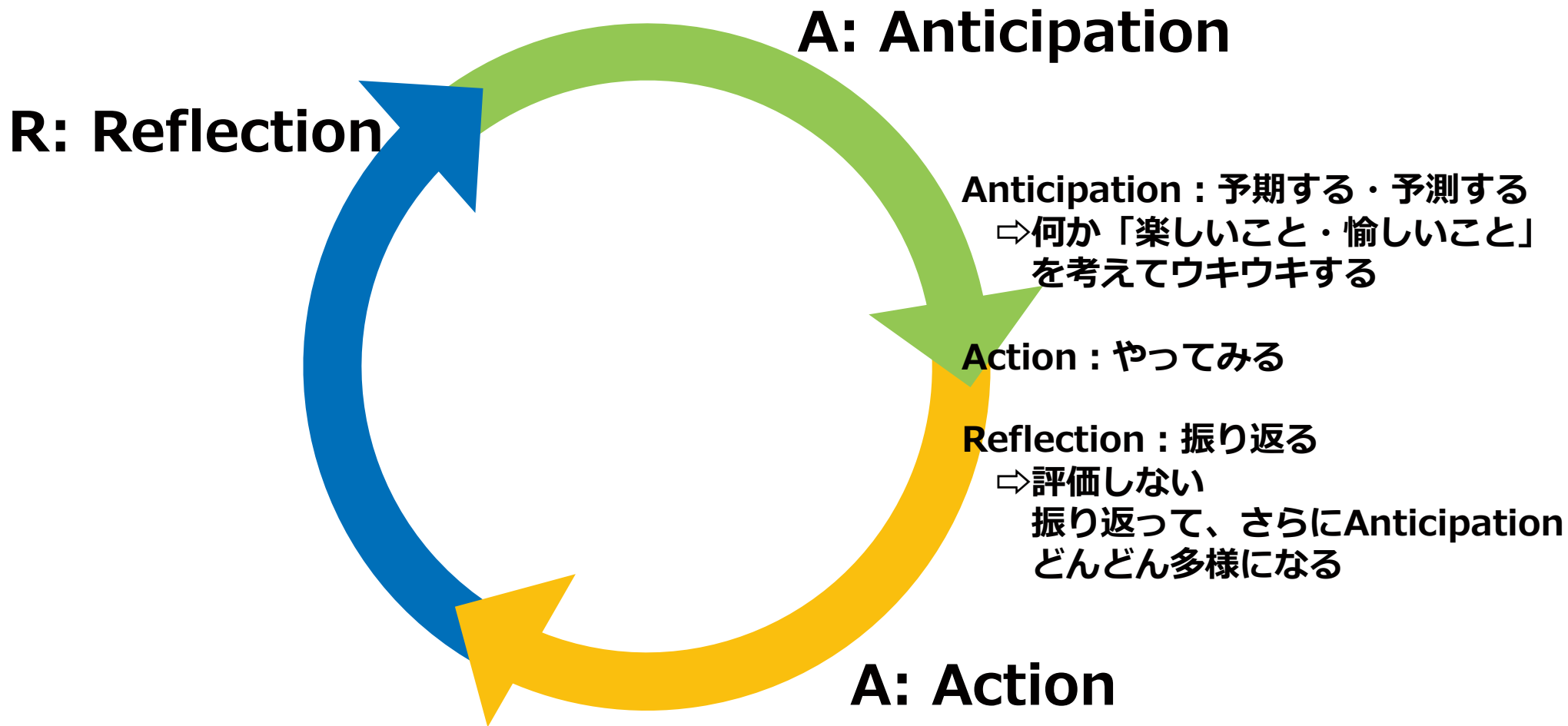
8. 〈ちいさな社会〉づくりの意味

**〈ちいさな社会〉づくりの取り組みは
何をやっているのか**

**相互承認関係をつくる
非認知能力を向上させる
社会に信頼感をつくる**

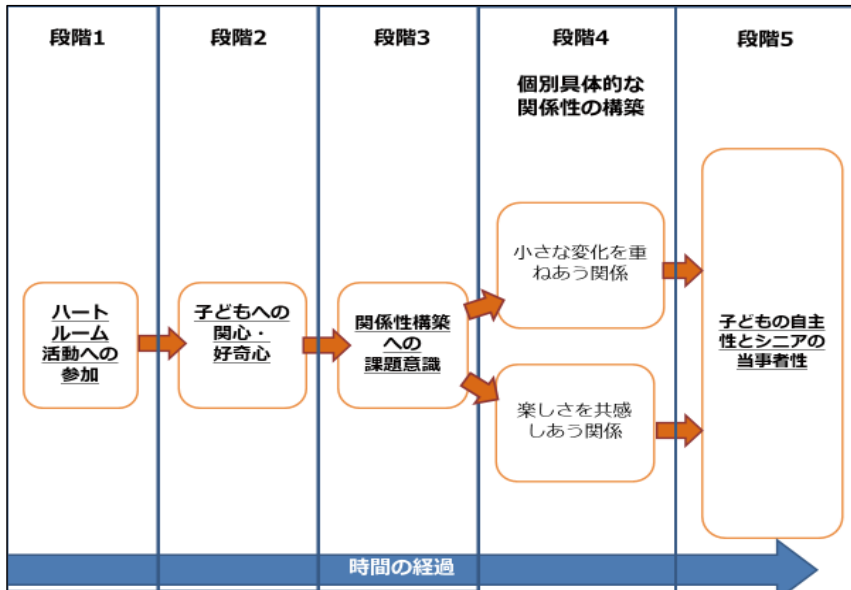
**人々が自律する
自己肯定感を持てるようになる**

「ことば」を使いこなして「対話」する関係



9. FOR ALLからBY ALLへ

高齢者と子ども双方に信頼感にもとづく変化が



住民によるマスクづくり



子どもたちによる 高齢者へのマスクづくりと寄贈



布マスク、高齢者のために

藍川東中生、ミシン使い作成

地元自治会連通じ配布

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、市民生活に大きな影響を与えている。マスクの不足が深刻化している。このため、藍川東中学校在生徒3人が、布マスクの製作を行った。青見町を母体の自治会連通を通過して配布される。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、市民生活に大きな影響を与えている。マスクの不足が深刻化している。このため、藍川東中学校在生徒3人が、布マスクの製作を行った。青見町を母体の自治会連通を通過して配布される。

朝日新聞デジタル > 記事

巨大マンション自治会に中学生役員 13歳の彼女がやってみたいこと

🔒 有料会員記事

村上潤治、山下奈緒子 2022年5月30日 14時00分

シェア ツイート ブックマーク メール 印刷



自治会の役員になった鈴木梨里子さん=2022年5月14日、横浜市磯子区磯子台、村上潤治撮影



1230戸の巨大な自治会の役員に、横浜市の子供中学生が立候補して就任した。市が把握する中で最年少とみられる13歳が担うのは――。

この自治会は、横浜市磯子区に2014年までに完成したマンション群（13棟、3300人）の「Brillia（ブリリア）City（シティ）横浜磯子自治会」。

5月22日に約100人が参加した自治会のオンライン総会で第6期（任期2年）の役員18人が選ばれた。留任は9人。立候補は6人で、その1人が私立中学2年の鈴木梨里子さん（13）だった。

子どもたちが自分の生活や社会の当事者となる

高齢者が伴走することで、高齢者自身が主役となる

「学び」 = 「よきこと」に気づき、実践する
⇒社会に「共通善」を実践する営み

- **Unmute** 対話しよう
- **Unlearn** 学びほぐそう
 - ⇒ **Relearn** 学び続けよう
- **Unlocked** 新しい自分とみんなを発見し続けよう

- **AAR cycle** まずは、やってみよう

**人生100年時代を生きぬく
「学び続ける力」を子ども・若者・すべての世代に**

**Sense of Wonderを引き出し
Sense of Wonderが駆動する
人生100年へ**

**すべての人が主役として
人とともに生きる社会**